



<http://hacchi.jp>

このまちがもっと、このまちらしく輝くためのソウゾウ開化…

「はっち」が贈る、おいしい情報。

氷都八戸
冬のフォルテッシモ

氷が八戸にくれたもの
スケート文化と美味しいお魚

はちのヘスケーターず・はっち特派員だより・まちぐみ・こどもはっち
スケーターズレポート・夜を彩るオトナの氷・まちぐみ組長の想い・キラキラママ

祝 平成28年度 地域創造大賞(総務大臣賞)受賞！

hacchi event program イベント情報

年末年始に伴い、12月30日(金)・1月2日(月・休)・3日(火)の開館時間は10:00～18:00となります。

■八戸市の新しい美術館を考えるシンポジウム

1月29日(日) 16:30～18:30

全国の美術館で特徴的な活動を手がけている方々と市民の皆さんと一緒に、現在整備を検討している新美術館のあり方について語り合うシンポジウムを開催。

*■ドキュメント展示「堤にもどる」

2月10日(金)～20日(月) 9:00～21:00

八戸スケート文化発祥の地である勤太郎堤跡地に、勤太郎堤を再現した工程の記録映像や、スケートの記憶のインタビュー映像を上映。また、市民のスケートの思い出を展示。

*■第4回 八戸市民ロボコン『かぶしま ウミネコロボコン』

2月12日(日) 開戦 13:00

国の天然記念物「燕島」に見立てた山型のコートに、卵型のアイテムを運んで点数を競うご当地ロボコン大会です。
観戦費：無料(事前申込不要)

*■えんぶりin はっち

2月12日(日)～20日(月)

えんぶり公演や衣装の着付け体験のほか、えんぶりをテーマにした型絵染め展やジオラマ展示など盛りだくさん！

■華屋台 20 周年記念

①写真展

八戸三社大祭華屋台 20 年間の写真を展示。
日時：2月22日(水)～25日(土) 9:00～21:00
※初日 11:00 から・最終日 16:00 まで

②市民向け八戸小唄講習会

華屋台で踊られている八戸小唄の踊りの市民向け講習会を開催。
日時：2月22日(水)・23日(木)
①13:00～②14:00～③15:00～(各回定員 20 名・はっち 1 階インフォメーションにて整理券配布)
問合せ：八戸三社大祭華屋台運営委員会 0178-41-1661

*■まちぐみアーカイブ展

3月7日(火)～20日(月・祝)

1 年間、まちぐみ組員と一緒に活動してきたことや、商店街の方々と取り組んできたことを、一目でわかりやすく展示します。

■南郷アートプロジェクト 2016

①食通アーカイブ展「Food× 風土」

文通のように食べ物を送りあう「食通」。南郷と香川県高松市との「食通」のやりとりを紹介する展示を行います。
日時：3月7日(火)～12日(日) 9:00～21:00

②食通トークイベント「Food× 風土」

プロジェクトの仕掛け人 EAT&ART TARO、南郷と香川県高松市のメンバーが“食べ物”と“風土”を語ります。
日時：3月11日(土) 18:30～20:00
ゲスト：EAT&ART TARO (現代美術家)
参加費：無料 (ミニうどん&ミニそば付き)
定員：40 名 (先着順、事前申込者優先)

③知恵をあつめる。第3回「“創造的過疎”を考える。」平成28年度 過疎地域自立活性化優良事例表彰 総務大臣賞受賞記念シンポジウム

UJI ターン者の増加で注目を集める「徳島県神小町」の事例を学びながら、過疎地域「南郷」で何ができるかを考えるシンポジウム。
日時：3月12日(日) 14:00～16:00
ゲスト：大南信也氏 (NPO 法人グリーンパレー理事長) 山本耕一郎氏 (アーティスト)
参加費：無料 (事前申込不要)

①②③問合せ：八戸市南郷文化ホール 0178-60-8080

*■ストリート投げ銭ライブ in はっち

1月11日(水) the good times(80 年代ディスコソング)
1月25日(水) まちブーン (シャンソン)
2月8日(水) 矢沢&minami(ロック)
2月22日(水) pasaco(ポップス)
3月8日(水) 齋藤芳夫 (演歌)
3月22日(水) Trio Bearissimo(クラシック)

開演 19:00 ※各回 30 分前開場
問い合わせ：たまに庵のーば 0178-43-3937

*■和日カフェ ～日本文化に親しむ日～

1月15日(日)・3月19日(日)

1 月は、百人一首大会や昔の遊び体験など盛りだくさん！
3 月も和の体験をはっちでどうぞ。

hacchi news はっちニュース

■祝！八戸三社大祭の山車行事「ユネスコ無形文化遺産」決定

2016 年 12 月 1 日、「八戸三社大祭の山車行事」など 全国 33 の祭礼行事が「山・鉾 (ほこ) ・屋台行事」として国連教育科学文化機関 (ユネスコ) の無形文化遺産に登録されました。地域が幾世にもわたり保護継承し、準備や練習を通じた世代間の交流、地域の結束力を高める役割などが国際的に評価されたものです。

はっちでは、八戸三社大祭の様子を映像とイラストで紹介するほか、ミニ山車を展示しています。ぜひはっちでご覧ください。



〈はっち情報発信中!!〉

<https://www.facebook.com/hacchi8>

https://twitter.com/hacchi_staff



iPhone 無料アプリ

i8nohe(あい・はちのへ)

その他各社新聞、コミュニティラジオ局 BeFM でも情報発信中です。

street event まちなか情報

■ブックセンターであなたのお気に入りの棚が見つかるかも

2016 年 12 月 4 日、六日町のガーデンテラス 1 階に「八戸ブックセンター」がオープンしました。

八戸市が直営する「本のまち八戸」構想の拠点施設で、施設内は「仕事のはなし」「どう生きるか」など、テーマごとに本が陳列されており、ドリンク

片手にゆっくりと本を閲覧し、気に入った本は購入することができます。そのほか、読書会ができる「読書会ルーム」や、執筆活動のために利用できる「カンツメブース」などのスペースもあります。



八戸ブックセンター

◎ 11:00～20:00

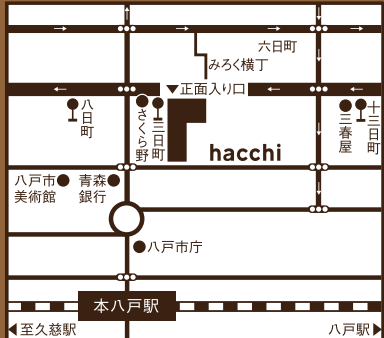
☎ 毎週火曜日

☎ 0178-20-8368

📌 <https://8book.jp>

【交通のご案内】

バス／八戸駅東口からバス八戸市中心街方面行き[約25分]
八戸中心街ターミナル(八日町)下車すぐ
ＪＲ／八戸駅からＪＲ八戸線本八戸駅下車[徒歩約10分]
航空機／三沢空港から八戸市内シャトルバス[約55分]
フェリー／八戸港フェリーターミナルから車[約15分]
車／八戸駅から車[約20分]
※一般来館者の駐車場はございません。
お近くの有料駐車場をご利用ください。



氷都八戸

八戸は冬季に雪が少なく厳寒で空気が乾燥しています。
昔は、どこのため池も格好の天然リンクであったことなどから、
古くから市民がスケートに親しんでおり、やがて多くのオリンピック選手を
輩出するようになりました。昭和44年(1969年)には1周400mの
長根公園パイピングスケートリンクが完成。全国有数の規模を誇り、
文字通り「氷都八戸」と称されるようになります。

冬のフォルテッシモ

氷が印象づける八戸の冬景色



書家
前田千賀子さん

「子ども時代の思い出のおかげか、
氷が大好き！」
滝が凍ってできたツララの写真を
一目惚れで購入し、自宅に飾っ
ているそう。

毎年はずちで書画展を開催する
前田千賀子さんはもと八戸市の
生まれですが、お父様のお仕事
の都合で、4歳から高校を卒業す
るまでのほとんどを、岩手県の雪
深い地域で過ごしました。それは
昭和20年代、30年代のこと。人々
の多くはまだ下駄を履き、冬にな
れば長靴を履く生活だったそうで
す。

そんな千賀子さんのごも時代
は、学校が夏休みや冬休みなどの
長期休みに入る度に、小中野にあ
るお祖母様の家に長期滞在するこ
とで、八戸の思い出がいっぱい詰
まったもの。

特に冬の思い出が強く、雪の多
い岩手から電車に乗って八戸駅に
降り立つと、雪の少なさが逆に怖
かったそうです。それは、八戸は
雪がなく道路が凍って滑って、滑
て転ぶのが怖かったそう。さらに
八戸は、肌を刺すような冷たい風
が吹いていて、とても寒く感じた
と言います。

しかしそんな寒さを吹き飛ばす
ほど楽しかったのが下駄スケート
でした。当時はすでに長根にスケ
ートリンクがありましたが、八戸で
はどこでも道路がきれいに凍った

ので、こどもたちの遊び場は家か
らすぐ近くの道路。皆下駄スケ
ートを履いて遊んでいました。

千賀子さんのお祖母様宅のそば
にたままいい坂道があり、その
頂上から皆で一斉に滑り降りて、
一番距離を長く滑った人が勝ち、
そんな遊び方をしていたそうです。
「道路が凍ったただだからスケ
ートリンクのように整備されてい
るわけではないですし、下駄スケ
ートは不安定だし、何よりこどもだ
から下手くそで、皆面白いように
転んでいました。

でも誰かが転べば皆ですぐ抱き
起こしてくれて、汚れたお尻も拭
てくれました。大丈夫、大丈夫っ
て笑って言ってくれたことが楽し
さを倍増させていたように思いま
す。皆で楽しむ連携プレーができ
ていたんですね。

それと、下駄スケートは、昼じゃ
なく夜遊んでいたんです。とい
うのも坂道の反対側が遊郭で、当
時はとてもにぎわっていたから夜
でも明るくて。車が通る日中より
も、車が通らない夜のほうが安全
で遊びやすかったんです。夕食を
食べ終わると急いで外に出て、夜
の8時頃まで遊びました。」



下駄
スケート

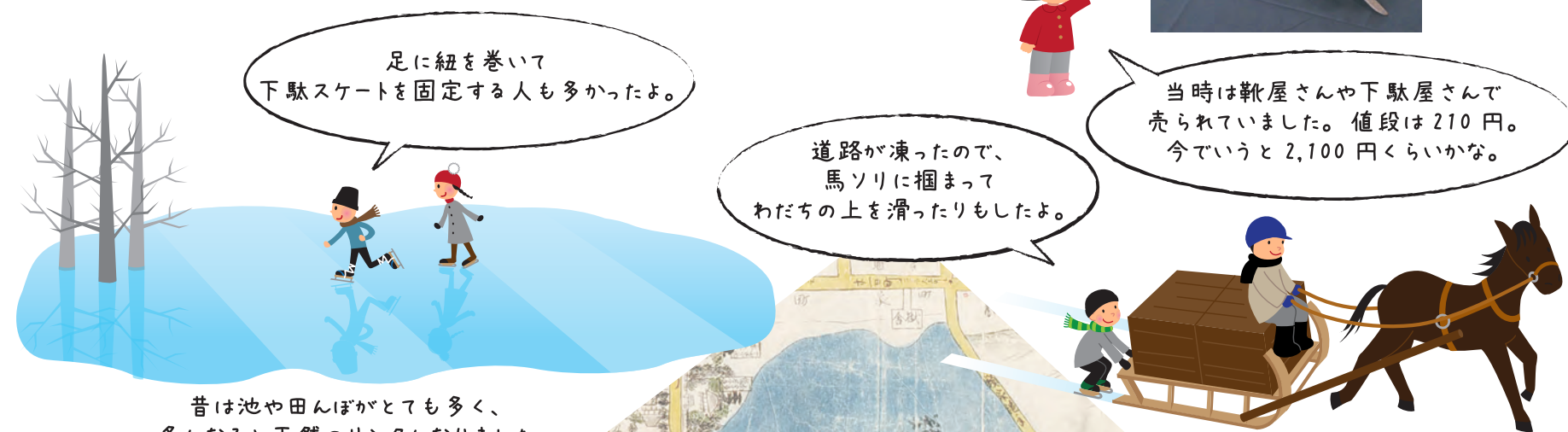
そこで活躍した下駄スケートは、
毎年冬になると小中野のお祖母様
が買い求めてくれたそう。冬のス
ケートだけではなく、夏休みには
毎年組の振袖を新調してもらった
と言いますから、千賀子さんはお
祖母様のたっぷりの愛情に包まれ
て育ったんですね。

ほかにも、ただただ氷割ったさ
に朝早く起床し、道の水溜りの氷
を競争して割ったり、大きな水溜
りの氷にジャンプして飛びのって、
氷が割れた時のガシャン!という
大きな音を楽しんだりしました。

また、岩手ほどではありません
でしたが、昔の八戸は大きなツラ
ラができることがあり、軒下に大
きなツララを見つけては、いかに
長く折り取るかを競争したりと、
八戸の氷の冬を全身で満喫したと
言います。

「冬休みが終わって岩手の自宅に
帰るのが嫌になるほど楽しかつ
た!」

八戸の氷の思い出を生き生きと
語る千賀子さんのお話は、今の時
代にはない光景を思い浮かべさせ
てくれます。



足に紐を巻いて
下駄スケートを固定する人も多かったよ。

道路が凍ったので、
馬ソリに掴まって
わだちの上を滑ったりもしたよ。

当時は靴屋さんや下駄屋さんで
売られていました。値段は210円。
今でいうと2,100円くらいかな。

昔は池や田んぼがとても多く、
冬になると天然のリンクになりました

感じます……



美術家
深澤孝史さん

氷都を訪れて

2017年の1月から2月にかけ
て行われる、はっちのアートプロ
ジェクト「スケート」のために、
八戸のリサーチを重ねてきました。
その中で特に印象的だったのが、
昔は農業や生活用水のための大き
な堤(ため池)がいくつもあった
ことでした。

今は住宅地の類家にも、昔は
勸太郎堤とよばれるため池があり
ました。冬には氷が張り、そこで
1907年に氷上運動会をおこ
なったことが、八戸スケート大会
のはじまりとされています。明治
大正の頃までは勸太郎堤がもつと
もスケートが行なわれていた場所
だったそうです。

そして、かつて堤だったこの地
に立つと、まるで土地の記憶が残っ
ているかのように、僕に何かを訴
えかけてくるのです。大地自体が
もしかしたら堤に戻ろうとしてい
るのかもかもしれません。

なぜスケートがはじまったのか
ということを考えながら今を見つ
めていくと様々な発見があります。
そうした発見をもとに、過去と今
を結びつけるようなプロジェクト
をつくつていこうと考えています。

窓の水からかすかに青ぞらが透い
て見えました。
「まあ、美しい。ほんたうに氷が飾
り羽根のやうですわ。」
「うん奇麗だね。」
向ふの横の方の席に腰かけてみた
線路工夫は、しばらく自分の前のそ
の水を見てみました。それから爪で
こつこつ削げました。それから息を
かけました。そのすきとほった水の
穴から黴んだ松林と薔薇色の雪とが
見えました。

「さあ、又お座りね。」こどもは又
窓の前の玉座に置かれました。小さ
な有平糖のやうな美しい赤と青のぶ
ちの苹果を、お父さんはこどもに持
たせました。

「あら、この子の頭のところで氷が後
光のやうになってますわ。」若いお母
さんはそつと云ひました。若いお父
さんはちよつとそつちを見て、それ
から少し泣くやうにわらひました。

「この子供が大きくなつてね、それ
からまっすぐに立ちあがつてあらゆ
る生物のために、無上菩提を求める
なら、そのときは本當にその光がこ
の子に來るのだよ。それは私たちに
は何だかちよつとかなしいやうにも
思はれるけれども、もちろんさう祈
らなければならぬのだ。」

宮沢賢治「氷と後光」抜粋



東北フリーブレイズ
キャプテン 田中豪さん



東北フリーブレイズ

発足：2008 年
ホームタウン：青森県八戸市・福島県郡山市
ホームリンク：テクノルアイスパーク八戸

日本・韓国・中国・ロシアの計9チームで争うアイスホッケーアジアリーグに参戦し、過去3度のリーグチャンピオンに輝いている。
昨シーズンは惜しくもプレイオフセミファイナルで敗戦。今シーズンは2シーズンぶり4度目のアジア制覇を目指す。

長根リンクで氷を作ってます



○氷を長持ちさせるために
氷を長持ちさせるため、リンクの床面を太陽光の熱を吸収しにくい、白色に塗っています。
もし、床面が黒かったら太陽の熱であつという間に溶けてしまいます。現に、リンクは白一色ではなく競技用の赤い線が入っているのですが、その赤い線のところですら先に氷が溶けてしまいます。
また、長根は屋外リンクなので雨が天敵です。雨だけが原因ではないですが、大雨だとリンクの水を溶かしてしまい、雨が凍ってしまうようだと表面がデコボコ



教えて・研いで 守ってます



研磨台は国内でほとんど生産されてないため、外国製を使っています



研ぎ待ちのスケート靴たち。県外からも続々と届きます

○八戸の冬はどうですか？
僕は札幌市出身で、小学生のころからホッケーの試合や合宿で毎年のように八戸を訪れていて、八戸のことは身近に感じていました。が、それでも冬の寒さは身にしみますね。いまでも冬場の朝練は正直、大変です。でも八戸は、冬は寒くてもファンの方々の応援は非常に熱く、私たちのプレーに一喜一憂してくれて、会場が一体となって盛り上がります。
また、ホームリンクのテクノルアイスパーク八戸の氷はスタッフで常に選手が滑りやすいように、

東北フリーブレイズのキャプテン田中豪選手に八戸の印象やファンについて伺いました。

八戸のトップアイスホッケーチーム 東北フリーブレイズ

フリーブレイズのメンバーから話を聞いてコンディションを整えてくれていますので、アジャスターです。八戸での試合は、そんなファンの皆さんやリンクスタッフの後押しをもらっているのewith頑張りることができるんです。
○八戸市民へメッセージをお願いします
皆さんの声援に答えるべく、もっともっといいゲームをしていきたいと思っていますので、これからも熱い応援よろしくお願いします。



エスプロモ株式会社
金澤秀幸さん

○リンクの製氷方法
今の長根リンクは、天然リンクではなく、冷凍設備を使って氷を作ります。マイナス15度ほどの非常に冷たい液体を循環させてリンクのコンクリート床をマイナス8度くらいまで冷やし、その表面に水（お湯）を撒くことで氷ができます。
氷を作るための散水は60度のお湯を使い、ゆっくり凍らせることで透明で強い氷ができます。散水作業は気温が下がってくる1月中旬の夜から朝方にかけて、一晩で10回ほど繰り返していきます。1回の散水で厚さ約1mmの氷ができるので、1日1cmを目標に4日かけて約4cmの氷を作ります。

○リンクの製氷方法
氷を長持ちさせるため、リンクの床面を太陽光の熱を吸収しにくい、白色に塗っています。
もし、床面が黒かったら太陽の熱であつという間に溶けてしまいます。現に、リンクは白一色ではなく競技用の赤い線が入っているのですが、その赤い線のところですら先に氷が溶けてしまいます。
また、長根は屋外リンクなので雨が天敵です。雨だけが原因ではないですが、大雨だとリンクの水を溶かしてしまい、雨が凍ってしまうようだと表面がデコボコ

これまでスケート国体や全日本選手権など数多くの大会が開催されてきた長根リンク。現在、そのリンクを管理運営しているエスプロモ株式会社の金澤秀幸さんにリンクの作り方などについてお話を伺いました。

なっています。

また、多くの方が滑走して氷上が荒れたら、整氷車で表面のデコボコを削って平らにし、後からお湯をまいて氷上をなめらかに整えます。

長根リンクでは、2台の整氷車を使い、それぞれが4周し合計8周でリンクを整備しています。

うまく整氷できなかつたり磨き残しがあると多めに一周回るので、整氷車が何周したか数えるのも面白いかもしれません。

今季の長根リンクは、2月いっぱいまで営業を行う予定です。私たちスタッフが整備したリンクに多くの方が滑りに来てほしいです。

また、場内で私を見かけたときは「はちみつ」読んだよとお声掛けいただければ嬉しいです。でも、整氷車運転中の声掛けは危険なのでご遠慮ください。

小学生を対象に、まずはスケートに親しんでもらおうと毎年スケート教室を開催するなど、スケートの普及活動に取り組んでいる青森県スケート連盟理事長・河原木浩さんにお話を伺いました。



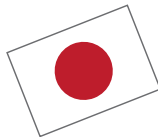
青森県スケート連盟
理事長 河原木浩さん

○毎年スケート教室で子どもたちに教えているそうです
昔に比べるとスケートを滑る子どもたちが激減しました。このままでは競技スケートをする子がいなくなってしまうという危機感もあり、スケートの楽しさを体験してスケートに親しむをもってもらいたいと、青森県スケート連盟では小学生を対象にスケート教室を開催しています。

○ご自身の経営するスポーツ店では、スケートブレード（刃）の研ぎも行っているそうです
アイスホッケーのスケート靴をよく見たことがない方は、包丁の刃を想像するかもしれませんが、実際は逆で、横滑りしないように、溝を彫ってエッジを効かせています。

○子どもたちに期待することとは？
スケート教室を巣立つ選手が、今建設されている屋内スケート場で市民の大きな声のなか滑る、そんな日がそう遠くない将来訪れることを期待します。

スケート国体 日本一 開催数 (12 回)



青森県スケート連盟
副会長 橋本恭二さん

○八戸で第1回目の冬季国体が開催されたそうです。
戦後まもなく第1回の冬季スケート国体が開催されることになったのですが、その時期の日本は自分たちが食べる食糧の確保ですら難儀していた時代で、その都市も国体の開催を躊躇したそうです。食糧難だったのは八戸も同じだったでしょうが、八戸市民にはスピードスケートとアイスホッケーにかける熱い想いがあつたのです。皆、手弁当で国体の運営にあたり、果ては自分たちの食べる分を犠牲にしても選手たちの食糧を集め、第1回大会を無事に開催できたそうです。
それ以降、何度も八戸で国体を開催してきましたが、長者小学校の校庭脇に60m×30mの大きさのフィギュアスケートリンクを作り、国体競技を開催したこともありました。
やはり八戸にはスケートというものが根ざしているのでしょう。国体開催のたびに地域・官・民を

あけて盛り上げようという雰囲気があつたように思います。
○昔の長根リンクは天然の氷だったと伺いました。
昔の長根リンクは天然のリンクでした。もともと長根は堤になつていたので、冬には水門を開め、今の桜木町から更上閣までの一帯をスケート場として使っていました。大変広く、リンクとしては広大すぎたため、大会を開催する時は氷の上に応援席用の仮設スタンドを設置したくらいです。
そんな長根リンクの氷は冬の訪れとともに自然にゆくり凍つたもので、底の草や藻が透けてみえるほど透明度が高い「油氷」と呼ばれる質の良い氷で、この氷で滑るとタイムが出やすいと選手たちには大変好評でした。天然氷のスピードリンクとして名を馳せていた長根リンクですが、時代とともに十分な氷が張らなくなつていき、昭和37年の国体の時には遂に競技ができるほど氷が張らず、高館沼の氷を切りだして自衛隊のトラックで長根まで運び、氷の足りないところを敷詰めてリンクを仕上げ、何とか国体を乗り切ったこともありまし。



長根リンク（スピードスケート場）開場
写真提供：青森県スケート連盟
青森県アイスホッケー連盟発行
「銀盤の歩み」（右2点も）



第一回国民体育大会ホッケー優勝
八戸中学校チーム（昭和22年1月）



大正末期の長根リンク



昭和初期の水場運動会
写真提供：青森県立八戸東高等学校

安全・安心なお魚のために



スラリーアイスで箱詰めされた鯖



漁船の魚倉から直接フィッシュポンプで吸い上げて、魚を箱詰めします



八戸市水産事務所
海野公典さん

○新しい氷ってどんな氷ですか？
流動海水氷（スラリーアイス）といい、海水からつくる小さな球状の水が混ざった液体で、溶けかけのシャベットのような柔らかい氷です。
これまでの氷は、氷の角が魚にぶつかって身を傷めたり、逆に魚と氷が接触せず鮮度を落としたりといった問題がありました。
それに対して、スラリーアイスは粒一つ一つが非常に小さく角がないので魚を傷めません。魚と氷の接触面積が格段に大きく、均一かつ急速に冷やすこと、細菌の繁殖をおさえることで鮮度を保持することができます。これまでの氷の問題点を一挙に解決した優れた氷です。
スラリーアイスを利用して水揚げされたA棟の鯖を食べてみてくださいませんか？

○八戸漁港では、どこで使われていますか？
スラリーアイスは、平成24年10月から稼働している「館鼻地区荷捌き所A棟」で多く使用されています。これは、高度な衛生管理が求められる対EU輸出基準に適合した施設です。ここから出荷される鯖の鮮度を保つためスラリーアイスを使用することが多いという訳です。衛生管理の面では、ここは水揚げから出荷まで外気や人の手に触れることなくオートメーションで行うことができるので、ここから出荷された魚は、非常に衛生的といえます。

全国でも有数の水揚げ量を誇る八戸漁港。魚と氷は切っても切り離すことのできない存在ですが、魚の鮮度を保つため新しい技術を取り入れた氷があるとのこと、八戸市水産事務所の海野公典さんにお話を伺いました。

